

平成二十六年

大村町子ども会 恵比寿六月燈

劇 ウサギとカメ

《配役》

ウサギ親方 秀栄 ウサギ① 生吹 ウサギ② 圭佑 ウサギ③ 隆登 ウサギ④ 凌岳
ウサギ⑤ 夢大
カメの大將 竜成 カメ① 知里 カメ② 空来 カメ③ 美桜 カメ④ 愛翔
カメ⑤ 斗慎 ○審判 朋甫 空

【あらすじ】

大村町のウサギとカメが、広段までどちらが先に登り着くか、競走をすることになった。ウサギはカメを馬鹿にして油断をして眠ってしまったが、カメが眠っているウサギを起こして上げる。そして、最後は揃ってゴールイン。ウサギとカメの友情が深まった・・・。

【幕前】（バックはシルバー。その下に山の絵を用意しておく）

秀栄 （花道をウサギ跳びで登場。花道の方を見ながら）みんな、集まれ！

ウサギ達 （ウサギ跳びのできる奴はウサギ跳びで、できない奴は四つん這いで花道から登場。幕前に立って並ぶ）

秀栄 みんな遅いぞ！ 整列！ 番号！

ウサギ （①②③④⑤と大きな声で番号を言う）

秀栄 よーし。全員揃ったようだな。

生吹 親方、全員揃いました。今日は一体、何のご用でしょうか。

秀栄 実はな、俺たちウサギ族の縄張りを固めるために、結束を図る必要がある。先ず全員、今日一日何をしていたか報告しろ。

生吹 （二歩前に出て）はい。大婁小学校六年、寺園生吹です。今日は、

圭佑 大婁小学校五年、宮脇圭佑です。今日は、

隆登 大婁小学校三年、田原隆登です。今日は、

凌岳 大婁小学校一年、亀園凌岳です。今日は、

夢大 大裏小学校一年、海野夢大です。今日は、

秀栄 よし。ではこれからサッカーの練習をやる。

(全員、中央から舞台へ移動。幕を開ける)

【第一幕】 (バックはシルバー。草の茂みを置く)

(サッカーのボールを蹴って遊ぶ)

(そこへカメたちが、下手からゾロゾロ這って出てくる)

生吹 なんだお前達は。邪魔だ、どけ、どけ。

竜成 僕たちにもやらせて下さいよ。

圭佑 お前達には、できっこないよ。

知里 そんなに言うなら試合をやりましょうよ。

隆登 何だって、試合だと？

生吹 親方、カメどもが俺たちとサッカーの試合をやるうって言ってますが。

秀栄 何だと？(竜成に近づき)お前がカメの大将か。

竜成 そうです。是非お近づきの印にサッカーの試合をやらせて下さい。

秀栄 ならば条件がある。俺たちの蹴ったボールを返すことができれば、試合をやってもいい。

竜成 分かった。(カメたちに向いて)みんな頑張ろうな！。

カメ全員 (全員で)おー。

(お互い六人ずつ向かい合う。親方↓大将、ウサギ①↓カメ①、ウサギ②↓カメ②、ウサギ③↓カメ③・・・とボールを蹴って寄越すが、カメたちは全く受け止めることができない)

圭佑 なんだそのさまは。偉そうに言っても全然駄目じゃないか。

生吹 さっさと、帰った帰った。邪魔だ、邪魔だ。

竜成 待つて下さい。サッカーが駄目なら、あの広段の上までどちらが先に駆け着くか、親方と競走させて下さい。

秀栄 何を寝ぼけたこと言ってるんだ。歩くのもやっとのくせに。

どれ、一〇歩歩いて見ろ。

竜成 (カメの大将、ヨチヨチ一〇歩歩く)

秀栄 (ウサギの親方、ヒョイとひとつ飛び)一〇歩歩いて、俺のひとつ飛びもないじゃないか。

隆登 そんなんじゃ、勝負にもならない。

竜成 でも、そこを何とかお願いします。

(ウサギ達、親方を中心にして語り合う)

秀栄 わかった。それほどまで言うなら、この勝負受けて立つ。

竜成 ありがとう、ありがとう。

秀栄 喜ぶのはまだ早い。もしこの勝負に負けたら、お前達の全ての縄張りを頂く。

竜成 えっ？全ての縄張りをを？

空来 大将、それはまずいですよ。

知里 この瀬早川の縄張りも、久富木川の縄張りも持つて行かれますよ。

美桜 代々伝わる、この縄張りを持つて行かれると、先祖に申し訳が立ちません。

空来 大将、止めた方が良いですよ。

圭佑 どうした、カメの大将。おじけづいたか！

竜成 いや。やると言ったらやる。その代わり、もしわたしが勝ったら、広段の縄張りを寄越して欲しい。

秀栄 良いとも、良いとも。俺が負けるわけがない。ワツハツハツハ……。

(急いで幕)

【幕前】

(朋甫と空、上手から登場)

朋甫 ウサギの親方とカメの大將が、広段までどちらが先に駆け着くか、競走をしようとしている。その審判を頼まれた。

空 えっ？ウサギとカメの競走ですか？やる前から勝負あり、ですよ。ウサギの勝ちだ。

朋甫 ウサギたちは、勝負に勝って、カメ一族の全ての縄張りを召し上げるつもりだ。弱い相手から、縄張りをせしめようとするウサギもウサギだが、勝つ見込みが全くないのに勝負しようとする、カメもカメだ。

朋甫 明朝、カメたちに思いとどまるよう説得してみよう。
空 できるなら、この勝負止めた方が良いでしょうね。

(幕の中央から消える)

【第二幕】(バックは第一幕と同じ)

(鉢巻きをしたカメの大將と、ウサギの親方がそれぞれ円陣を組んでいる)
(朋甫と空、上手から登場)

朋甫 本日の勝負の審判をする、有川朋甫と申す。

空 その補佐役をする、北原空と申す。

朋甫 勝負の前に、確かめておく。カメの大將、今からでも遅くはない、ウサギの親方に謝って、勝負を取りやめても良いのだぞ。

竜成 はい。ご心配には感謝しますが、やります。勝負します。

朋甫 相分かった。双方の縄張りの権利書、勝負が着いた後、勝った方に渡す。決着が付くまで、当方で預かっておく。

それでは、位置について。用意(ピストルでドン)

ウサギ達 親方ガンバレー。

カメ達

大将、ガンバレー。

(スタートと同時に、ウサギの親方は余裕を見せながら、手を振ってウサギ跳びであつという間に舞台をグルリと回って上手に消える。カメの大将は、ヨッコラヨッコラと歩く)

【ゆつくりと幕】

【第三幕】(バックはシルバー。樹木を置く)

(ウサギの親方、余裕の表情でしばし休憩。ウサギ達も後からやってくる)

親方。カメの大将、まだ広段の登り口にも来ていませんよ。

親方は、あと一踏ん張りでゴールですよ。

前祝いでもするか。おい、酒を持ってこい。

そんなことだろうと思って、ハイこの通り。

抜け目のない奴だ。

さあ、みんな飲め。

さあ、みんな歌え。

ウサギ達

♪もしもしカメよ、カメさんよ、世界の内でお前ほど、歩みののろい、ものはない、どうしてそんなにのろいのか♪

秀栄

一杯飲んだら良い気分になった。少しばかり寝るとしよう。

(舞台と場内の電気をしばらく消す。そこにカメの大将下手から登場。後にカ

メたちがゾロゾロと続く)

知里

大将。ウサギたち、眠りこけていますよ。

愛翔

今の内に追い抜いて、先にゴールすれば、大将の勝ちだ。

愛翔

大将、チャンスですよ。

(カメ達、ソロリソロリと過ぎ去ろうとする。上手に消えようとしたときに大

将が戻ってくる。そして、ウサギの親方を揺り起こす)

竜成

ウサギさん、ウサギさん。まだ勝負は終わっていませんよ。ウサギさん。

秀栄

おー。これはいかん。寝過ごした。起こしてくれたのか、ありがたいよ。
(やつと目覚めたウサギの親方は、慌ててピョンピョン駆け出してゆく。カメの大将は、またノロノロ歩いて上手に向かう)

【急いで幕】

【幕前】

(カメ②、カメ③、カメ④幕中央から登場)

(腕を組みながら)うちの大将、どうしてウサギを起こしたんだろう。

眠っている間に、あのまま進めば、この勝負、勝っていたのに。

(両手を広げて)これで、カメ一族は破滅だわ。

(カメ②③④、幕中央に消える)

【第四幕】 (バックは山の絵)

(審判二人がゴールに待っている。ウサギはあと一息という所で立ち止まる)

親方どうして止まるんですか。あと一息じゃないですか。

そのままゴールして下さい。お願いします。

親方、親方。

(しばらく腕組みをし)いや、俺一人だけでゴールするわけにいかない。

(と言うが早いか、下手に引き返す)

【急いで幕】

【幕前】

(下手からカメの大将がやってくる。上手からウサギの親方がやってくる)

あつ、ウサギの親方。もうゴールしたんですか。わたしの負けですね。

いや、まだゴールしていない。さっきは俺のことをよく起こしてくれた。さあ、

秀栄

竜成

秀栄

隆登

圭佑

生吹

美桜

空来

知里

背中にしっかりつかまれ。

(ウサギの親方はカメの大将を背負って、幕中央に消える)

【第五幕】(バックは第四幕と同じ)

(下手からカメを背負ったウサギが登場。仲良くゴールインする)

(ウサギ達とカメ達は二人のゴールに拍手を送る。笑点のメンバーも出てくる)

朋甫 この勝負引き分け。よって、預かっていた縄張りの権利書は双方に返す。

(知里と圭佑に権利書を渡す)

知里 良かったね、良かったね。(とカメ達に言う。みんなうなづく)

朋甫 これまで多くの審判をしてきたが、本日の勝負は実に見応えがあった。

秀栄 カメさんよ、これから先、仲良くやっていこうな。よろしく頼むぞ。

竜成 ウサギさん、こちらこそよろしくお願ひしますよ。

(審判を中央にして、ウサギの親方とカメの大将が握手を交わす。他のウサギとカメ達も、三人を取り囲むようにして、万歳の体制を取りながら横に並ぶ)

空 ウサギさんとカメさんが、これからも仲良く暮らせるように祈念して、万歳を

三唱します。会場の皆さんもご唱和お願ひします。

ウサギとカメ、万歳、万歳、万歳。

【終わり】

(急いで整列する。自己紹介をして終わり)